



2009/12/01

鳥との出会い／レンジャク

今から十数年前のことです。当時はまだ野鳥に特別な関心もなく、ごく普通にメジロ・ウグイス・シジュウカラ・ツバメなどが識別できる一般人でした。その頃は横浜駅近くの高台にある社宅に住んでいて、周囲には緑が多く、庭には樹齢100年ほどの大きなタブの木が2、3本ありました。2月初旬の晴れた朝、屋上に洗濯物を干しに出ると、どこからか「チリチリ、チリチリ」と不思議な声が聞こえてきました。キョロキョロ周囲を見回し声の正体を捜しました。庭のタブの木の枝に沢山の鳥がひしめくように止まっていて、その鳥たちの鳴く声だったのです。今まで見たこともないきれいな鳥です。双眼鏡でのぞいて見ると、顔つきは歌舞伎役者の隈取りのようで、冠羽がピンと立ち、つやつや光る羽、そして尾羽には、赤と黄の色が鮮やかに輝いています。早速図鑑を取り出して調べ、「キレンジャク」と「ヒレンジャク」と判名しました。

こんなきれいな鳥がいるなんてビックリ仰天です。ちょうど大学受験で泊まっていた姪も呼んでゆっくりとレンジャク達を観察しました。彼らはタブの実を食べ尽くしたのが2、3日で姿が見えなくなりました。さてその後は、毎年2月になると今年は来るかとタブの木をチェックしていましたが、あの夢のような光景には二度とお目にかかれませんでした。

そんなこともあって野鳥に興味が向いて、野鳥の会に入会、少しずつ鳥の名も覚えて、今ではすっかり鳥にはまっている私です。

さて二度目のレンジャクとの出会いはというと、これが今住んでいる所のすぐ近くの仁川団地です。夫の転勤で仁川に住むようになったのは3年前。近くの甲山森林公園をフィールドにして探鳥を楽しんでいますと、仲間から「レンジャクが仁川団地に来てる。」と教えられ、早速駆けつけると……。いました!!100羽ほどのキレンジャクが空を飛び回っています。夫やこちらで知り合った友達を誘って何度も見に行きました。彼らは、ネズミモチの実を食べ尽くしてどこかへ去っていきました。そして数日後、甲山で数羽のキレンジャクが梢に止まっているのを発見。空中に飛んでいる虫をフライキャッチする様子を観察することが出来ました。又、関西学院大学の松の木に茂るヤドリギに飛来しているのも見る事ができました。

この様にして最近では毎年数羽ずつですがレンジャクに出会っています。今年の3月には、北欧ノルウェーのラップランドで、雪景色の中を元気に飛び回っているキレンジャクに出会いました。英名はBohemian Waxwing。ユーラシア大陸の端から端までずいぶん広い地域に棲んでいる鳥なのですが、今度はどこで会えるか、楽しみが一つ増えました。

鳥と出会った人：染谷 方子